

書

香

大谷大学図書館報

第21号

2003年11月28日
大谷大学図書館 発行
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL. 075-411-8123

目次

戦後ふたたびの移転、完了す…………… 1	十五年は一葉とともに……………17
貴重資料紹介 (17)	新『清沢満之全集』完結に寄せて
北京版西藏大蔵経の請来…………… 2	真宗教学の公開……………20
北京版西藏大蔵経について…………… 6	思索者としての清沢満之……………22
重要文化財『三教指帰注集』……………10	図書館日誌……………24
新着資料 上賀茂神社の精進頭人について —本学博物館収蔵「上賀茂神社文書」—……………13	

戦後ふたたびの移転、完了す

図書館長 大内文雄 (教授・東洋仏教史学)

本年8月下旬、旧図書館からの図書移転が完了した。昨年4月初めの新図書館開館に備え、洋装本を中心とする図書の大多数は直ちに利用に供されるよう既に移されていたものの、本学が誇る貴重な書籍・文物類はその取り扱いに慎重を期さねばならないため、移転及び移転後の保管等にかかわる準備に、ここまでの時間を要したのである。

移転直前の作業には、ほこり払いが含まれた。今は至誠館と称されている旧図書館棟が建設されたのは1961(昭和36)年であった。爾来40余年、その間に降り積ったほこりすら最も新しいと言ってよい、文字通りに積年のほこりである。それらを払い落す作業は、閉架書庫の密閉された空間の中で行われ、職員にとっても過酷と言えるほどのものであった。勿論その他もろもろの業務を同時に進行させながらのことである。

こうして住みなれた場所を後にして、空調の利いた広々とした空間に身を置くことになった書籍・文物群であるが、同じ屋根の下

にあって、今これらは図書館書庫の貴重庫と、博物館収蔵庫に分属されている。これまた本学多年の課題であった博物館の新設・開館に伴う移転計画の一環として実施された。

旧図書館(現至誠館)より以前の図書館は、1号館南側の楠のあたりに建っていた。1961年前後より僅か40余年の間に、本学の書籍群は、他の文物とともにその数量を増しながら、都合2回の大移動を繰り返してきたことになる。それぞれが固有のものとして負っている過去の時間と比較し、極めて短いと言ってよい間での度重なる移転は、それぞれにとってもまた過酷であった筈である。

本学の貴重・有用な書籍・文物群も他の例にもれず、有限の存在である。有限・湮滅のさだめを承知の上で、これらを如何に教育・研究に利用し、かつ保存・維持して行くか。なべて機械化・効率化の今日、最難関の課題はそこにある。これらにとって、ここが安住の地となり得るか否かの判断は、まだまだ遠い将来にまたねばならない。